

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都港区麻布台一丁目3-1

【8月31日からの1週間の展望】

週間高低 (カッコ内は日)

8月24日～8月28日

	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	158.87	159.56(28)	158.56(24)	159.46	+0.51
ユーロ・ドル	1.1677	1.1687(24)	1.1637(27)	1.1644	-0.0035

=====

国内株・金利／米国株・金利

	終 値	前週末比	終 値	前週末比
日経平均株価	66,405.56	+389.20	日本10年債利回り	2.937 +0.049
ダウ平均株価	53,569.44	+292.43	米10年債利回り	4.676 -0.058

=====

<来週の主要経済統計等>

3 1 日 日本7月小売業販売額

日本7月鉱工業生産指数速報値

中国8月製造業PMI

独8月消費者物価指数速報値

※20カ国・地域(G20)財務相・中央銀行総裁会議(1日まで)

1 日 豪第2四半期経常収支

豪7月住宅建設許可件数

中国8月レイトイングドッグ製造業PMI

スイス7月小売売上高

独8月製造業PMI 確報値

ユーロ圏8月製造業PMI 確報値

英8月製造業PMI 確報値

ユーロ圏8月消費者物価指数速報値、ユーロ圏7月雇用統計

米8月製造業PMI 確報値

米8月ISM製造業景況指数

米7月建設支出

2 日 豪第2四半期GDP

高田日銀審議委員講演

NZ準備銀行(RBNZ)政策金利

米8月ADP雇用統計

カナダ銀行(BOC)政策金利

米7月製造業受注

米地区連銀経済報告(ページブック)

3 日 豪7月貿易収支

スイス8月消費者物価指数

スイス第2四半期GDP

独8月サービス業PMI 確報値

ユーロ圏8月サービス業PMI 確報値

英8月サービス業PMI 確報値

ユーロ圏7月生産者物価指数

米7月貿易収支

カナダ7月貿易収支

米第2四半期非農業部門労働生産性指数

米新規失業保険申請件数

米8月サービス業PMI 確報値

米8月ISM非製造業景況指数

4 日 日本7月勤労者世帯家計調査

独7月製造業受注指数

ユーロ圏7月小売売上高

米8月雇用統計
カナダ8月雇用統計
カナダ8月Ivey購買部協会指数

【前回のレビュー】中東情勢の不透明感による原油高はドルの下支え要因となりそう。
一方で、米財務省の国債買い入れ増額報道による米長期金利の低下はドルの売り圧力となりそう。日銀の早期利上げ観測が徐々に高まる中、ドル円は158～159円台で推移してきた。160円接近では介入警戒感もあり、上値を抑えられやすい動きを見せており、ドル円は引き続き高値圏でのみ合いの動きが続くとした。

【ウォーシュ議長の講演待ちでドル円はみ合い】

27～29日にカンザスシティ連銀主催の経済シンポジウム、通称「ジャクソンホール会議」が開催される。日本時間の28日午後11時から、米連邦準備制度理事会（FRB）のウォーシュ議長による基調講演が予定されている。

市場では8月24日以降の相場において、この講演を控えて様子見ムードが強まった。積極的なポジションが取りづらくなり、ドル円は158～159円台での推移が続いた。ドルは底堅い地合いを保っており、25日以降はおおむね159円台でのみ合いとなっている。

26日のNY市場では7月の米個人消費支出（PCE）物価指数が前年比+3.7%となり、市場予想の+3.6%を上回った。インフレの高止まりが意識される中、米長期金利が上昇してドル買いの動きにつながった。ドル円は159.45近辺まで上値を伸ばした。

もっとも159円台半ばまで上昇する場面は見られたものの、160円が視野に入るとドル売り円買い介入への警戒感から上値を伸ばしにくい展開が続いている。

【8月31日の週は米雇用統計ウィーク】

8月31日～9月4日の週に予定される日米の経済指標やイベントには、31日の日本7月小売業販売額、日本7月鉱工業生産指数速報値、9月1日の米8月製造業PMI確報値、米8月ISM製造業景況指数、米7月建設支出、2日の米8月ADP雇用統計、米7月製造業受注、米地区連銀経済報告（ページブック）、3日の米7月貿易収支、米第2四半期非農業部門労働生産性指数、米新規失業保険申請件数、米8月サービス業PMI確報値、米8月ISM非製造業景況指数、4日の日本7月勤労者世帯家計調査、米8月雇用統計などがある。

主な経済指標の事前予想と前回は次の通り。まず、1日の米8月ISM製造業景況指数は55.4（前回55.6）、米7月雇用動態調査（JOLTS）求人数は730.0万人（前回735.9万人）の見込み。2日の米8月ADP雇用統計は3.9万人増（前回4.4万人増）、3日の米8月ISM非製造業景況指数は54.3（前回54.1）と予想されている。そして最も注目される4日の米8月雇用統計は、非農業部門雇用者数が6.0万人増（前回2.3万人減）、失業率は4.2%（前回4.1%）の見通しとなっている。

ウォーシュFRB議長はフォワードガイダンス（将来の金融政策指針）を廃止するなど、市場との積極的なコミュニケーションにやや慎重な姿勢を見せている。こうした中、今回の講演でウォーシュ氏が今後の金融政策を積極的に開示するような見解を示すとは期待しにくい。

為替市場ではドルは底堅い動きを見せる一方で、円は緩やかながら売られやすい地合いが続いている。8月31日以降の米経済指標は総じて堅調な結果が予想され、極端な悪化を示す可能性は低いとみられる。こうした中、緩やかなドル買い円売りの地合いは続きやすいと見込まれる。ただ、160円接近では介入警戒感が上値を抑えたとみられ、ドル円は高値圏でのみ合いが続くとみられる。目先の予想レンジは156.00～160.50円。

【ユーロドルは高値圏でもみ合いか】

ユーロ圏やドイツでは消費者物価指数速報値や製造業やサービス業のPMI（購買担

当者景気指数）確報値の発表がある。ユーロドルはこうした指標やドルの動向に左右されやすい展開が予想される。

ユーロドルは１．１７ドル台に乗せた後は伸び悩みを見せている。ドルの堅調な地合いがユーロドルの上値を抑える要因となっている。高値から調整しているものの、大きな崩れはなく、底堅い動きが見込まれる。ただ、積極的に上値を伸ばす勢いにも欠けており、高値圏で一進一退の推移を続けるとみられる。目先の予想レンジは１．１５５０～１．１８００ドル。

ポンドドルは８月２１日に１．３６７０ドル台まで上昇したものの、その後は軟調な動きに転じている。５日移動平均線を割り込み、１．３５ドル台まで下落している。これまで続いた上昇の反動から、足元は上値の重い展開が見込まれる。目先の予想レンジは１．３４００～１．３７００ドル。

今後の日米以外の経済指標やイベントとしては、まず８月３１日の中国８月製造業PMIや独８月消費者物価指数速報値が発表される。９月１日には豪第２四半期経常収支、豪７月住宅建設許可件数、中国８月レイトイングドッグ製造業PMI、独８月製造業PMI確報値、ユーロ圏８月製造業PMI確報値、英８月製造業PMI確報値、ユーロ圏８月消費者物価指数速報値やユーロ圏７月雇用統計などがある。

２日には豪第２四半期GDP、NZ準備銀行（RBNZ）政策金利、カナダ銀行（BOC）政策金利が予定されている。３日には豪７月貿易収支、スイス８月消費者物価指数やスイス第２四半期GDP、独・ユーロ圏・英の８月サービス業PMI確報値、ユーロ圏７月生産者物価指数、４日の独７月製造業受注指数、ユーロ圏７月小売売上高などの発表が予定されている。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。